

日本心理学会第 76 回大会 WS
宗教心理学的研究の展開(10)―宗教心理学研究会発足 10 年目を迎えて―

懇話会、ワーキンググループ、勉強会、研究例会に関する報告

酒井克也(出雲大社和貴講社)

はじめに

発表者が初めて参加した、宗教心理研究会の活動は、2011 年 9 月に開催された日本心理学会での研究発表と、その後に行われた懇話会であった。その時の感動がもとで、以後この一年間、都合の許す限り活動に参加してきた。主にこの一年で活発に展開を見せたこうした活動内容とその意義を、参加者の目からまとめたい。

1. 懇話会、その意義

- ・ 2011 年 9 月 16 日 東京新宿にて
「研究は楽しく。学会を目指して。」

かけだしの人間から著名な研究者までが、一切の垣根を払ってコミュニケーションが出来る。そうした形式をこころよく受け容れる人格者集団。新参者を歓迎する風潮。研究の「浪花節」的側面。

2. ワーキンググループ、その意義

- ・ 第 1 回：2011 年 10 月 29 日 東京大学駒場キャンパスにて
主な議題：勉強会の形式、開催時期、場所について 10 年を振り返って
- ・ 第 2 回：2012 年 1 月 21 日 東京大学駒場キャンパスにて
主な議題：勉強会の内容 ホームページの管理、更新について
- ・ 第 3 回：2012 年 3 月 24 日 神戸親和大学三宮キャンパスにて
主な議題：関西主導の勉強会、ML 等の立ち上げについて
- ・ 第 4 回：2012 年 5 月 26 日 東京大学駒場キャンパスにて
主な議題：科研費プロジェクトについて 日本心理学会発表内容について
- ・ 第 5 回：2012 年 8 月 19 日 東京大学駒場キャンパスにて
主な議題：科研費プロジェクトに関する報告

手弁当で白熱したミーティング。忌憚のない、しかし建設的かつ紳士的な議論。

3. 勉強会、研究例会、その意義

●東京大学駒場キャンパスにおける『宗教心理学概論』読書会

- ・2012年5月12日（酒井克也 第1章イントロダクションと研究方法論）
- ・2012年8月19日（岡田正彦 第7章宗教とメンタルヘルス）

各人の立場から見た、多角的な解釈とまとめ。それに対する多角的な意見交換。研究のネタの宝庫。

●関西地区研究例会

- ・2012年7月8日 関西保育福祉専門学校にて
「日本人における「写経行動」の再検討 ―質的観点から―」中尾将大（大阪大谷大学）
「自殺に対する社会規範と宗教の関連性―マルチレベルモデルを用いた国際比較―」
横井桃子（大阪大学人間科学研究科）

4. これからの宗教心理研究会に期待すること

この研究会の素晴らしいところは、「宗教心理学」というキーワードに反応する、本当に多種多様な人材が集結している点である。心理学（発達、教育、臨床、社会 etc.）、宗教学、社会学、民俗学、比較文明などなど、立ち位置も違えば研究方法も様々。まさに研究者のつぼである。しかも、各人がかなり高水準の研究実績を持っており、日本国内のみならず、世界の学界、雑誌などにその名を連ねている。この事実は、ものすごいことである。

組織は、大きくなるとその質を変化させざるを得ないのが世の常である。しかし、わが宗教心理研究会においては、ますます個性的人材に対してすそ野を広げ、人数を増やし、多様性の塊となりつつも、ニューカマーに対して歓迎の息吹を感じさせ、自由にコミュニケーションが出来る場であり続けてほしい。少なくとも自分は、そういうメンバーでいたい。

また、研究法、内容、モチベーションなどが世界水準であり続け、世界に誇れる「学会」となっていきたいと切に願う次第である。